

鎌倉の埋蔵文化財 25

Buried Cultural Properties in Kamakura 25

令和2年度発掘調査の概要



令和4年(2022)3月
鎌倉市教育委員会

ごあいさつ

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家による政治をはじめた地として知られ、その地下には鎌倉時代の町なみをはじめとして、旧石器時代から江戸時代に至る人々の生活の痕跡が埋蔵文化財として残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などの土木工事により失われてしまうことも少なくありません。貴重な歴史的遺産が失われてしまうことにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる埋蔵文化財も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行等により、発掘調査の成果を紹介しており、また、鎌倉歴史文化交流館でも出土資料の展示を行っています。

これからも、市民をはじめとする皆さまの歴史への理解が深まるよう、様々なかたちで発掘調査の成果を公開してまいりますので、文化財の保護に対するご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

目 次

1. 北条義時法華堂跡	1
2. 今小路西遺跡（御成町 187 番 3 地点）	2
3. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目 342 番 2、5 地点）	5
4. 今小路西遺跡（由比ガ浜一丁目 165 番 11、12 地点）	8
5. 長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目 199 番 37、42 地点）	10

例 言

1. 本書は令和 2 年度に市内で実施された発掘調査の概要を中心に掲載しました。
2. 本書は鎌倉市教育委員会文化財課が作成しました。
3. 本書の作成にあたり次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

株式会社斎藤建設、株式会社博通、湘南工科大学、満光山来迎寺（敬称略）。

表紙写真

湘南工科大学 長澤・井上研究室の協力により制作された北条義時法華堂の AR（Augmented Reality/拡張現実）による復元。発掘調査成果を基に、兵庫県鶴林寺の太子堂・常行堂を参考に復元しました。本尊は明治以前まで白幡神社に祭られており、現在は西御門の来迎寺に祭られている如意輪観音像をモデルにしています。

1. 北条義時法華堂跡

Hojyo-Yoshitoki-Hokkedo-Ato

北条義時は、伊豆に配流された源頼朝を助け、頼朝の鎌倉入部、幕府創設、奥州合戦、承久の乱等を経て、黎明期の鎌倉幕府を支えた人物であり、幕府体制の礎を作った人物と言われています。鎌倉時代の歴史書『吾妻鑑』には、北条義時は貞応三年（1224年）六月十三日に死没し、その墓は「故右大将家（頼朝）の法華堂の東の山上を墳墓とした」と記されています。この「故右大将家の法華堂」が源頼朝法華堂であり、その「東の山上」の墳墓こそが北条義時法華堂です。

平成17年（2005年）に実施した北条義時法華堂跡の発掘調査では、山の中腹を平坦に造成した平場に方三間宝形造りの礎石建物が発見されました。方三間とは、平面正方形の建物プランで、柱間が3間の建物をいいます。宝形造りとは、建物四隅から建物中心に向かって傾を配する屋根の形をいい、屋根の頂点には宝珠が載ることが通例です。平安から鎌倉時代には、この種の建築様式は仏堂や墳墓堂に用いられました。建物の大きさは一辺28尺（8.48m）と想定され、そこに縁と雨落ち溝が巡ります。格子状の圧痕がある焼けた土壁が出土していることから、火災に遭ったことも分かります。

『北条九代記』には弘安三年（1280年）十月二十八日に頼朝・義時両法華堂が焼失したことが記されています。また延慶三年（1310年）にも、法華堂が焼失したという記事が見えますが、頼朝・義時いずれの堂を指すのかは未詳です。

現在、現地では発掘調査成果に基づき建物範囲を表示しており、ARによる建物の復元を体験することができます。



写真1 北条義時法華堂跡の遺構表示 発掘調査で発見された建物の範囲を示しています

(photo1) Site display of Hojo-Yoshitoki-Hokkedo-Ato. The range of the building discovered through the excavation research is shown

2. 今小路西遺跡 (御成町 187 番 3 地点)

Imakoji-Nishi-Iseki Site

武家屋敷の向かいは庶民の家？混在する都市暮らし

この調査地点は、現在の鎌倉市役所の北方約 200m に位置し、今小路の西側に面しています。調査地点の西側隣地で平成 18～19 年度に発掘調査が実施され、鎌倉御家人安達氏に関わると推定された武家屋敷、さらにその屋敷の前面には泥岩で舗装された道路が発見されています。本調査地点は、その道路を挟んだ東側、屋敷の向かいに当たります。

調査地点では、鎌倉時代の生活面の建物遺構の密度は低く、敷地内の建物はまばらであったと推定されています。なかには粗末なバラック小屋を想像させる建物もあることから、西側で発見された武家屋敷とは異なり、庶民の居住する区画であったと推定されています。現在の御成小学校で発見された遺跡でも、武家屋敷と道路を挟んだ向かい側には庶民の居住区が発見されており、武士と庶民の居住域が混在した都市生活の実態が明らかにされています。



写真2 調査区全景写真(東から) 白丸で囲まれた穴は柱の穴、奥の大きな白丸は井戸跡
(photo2) Entire research area (from east). Holes surrounded by white circles are holes for
pillars, and a big white circle of the top of the photo shows remains of a well



写真3 発見された井戸跡 木組みの井戸枠と水漏れ防止に塗られた漆喰が残る
 (photo3) Discovered remains of the well. Wooden well-framework and plaster covered for preventing water are left



写真4 高下駄としゃもじの出土状況
 (photo4) A tall wooden clog and a rice scoop as excavated

「おのおの^{はさみいた}夾板^を切り、その^{すそ}暇^{をも}って矢石^の路^{とな}して攻め^{はか}戦^い」

下の写真は、鎌倉時代中期頃の地層から発見された塀の跡です。全長 13m が発見され、敷地を区切った塀であったと考えられます。塀の下部の一段目又は二段目の板材が残っており、塀の構造が判明します。この塀は、二本の柱を建て、その柱で横板を挟み込んで板塀とする特徴的な構造です。

北条義時と和田義盛をそれぞれ筆頭とする、北条氏と和田氏の争いであった和田合戦の様子を記した『吾妻鑑』建暦三年（1213 年）五月二日条には「おのおの^{はさみいた}夾板^を切り、その^{すそ}暇^{をも}って矢石^の路^{とな}して攻め^{はか}戦^い」と記され、「夾板」を切って矢を射る隙間（狭間）をつくり、攻め戦った、とあります。辞典類をみると夾（挟）板とは、柱に溝を彫りそこにはめた板とあります。しかし、同じく『吾妻鑑』の宝治合戦の様子を記した条（宝治元年五月二日条）には、三浦盛時が夾（挟）板に手をかけ、そこを飛び超えて敷地内に参上したとあることから、ここではフェンス状のものであったことが推測されます。「夾板」とは今回発見された、柱によって挟まれた構造の板塀を指すのかもしれませんが。



写真 5 敷地を区切る板塀の跡

(photo5) Remains of plate fences defining the premises



写真 6 柱と横板の拡大写真

(photo6) Enlarged photo of a pillar and a transverse plate

3. 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目 342 番 2、5 地点)

Wakamiyaoji-Shuhen-Isekigun Site

半地下式の倉庫跡と職人の活動

夷堂橋の北方約150mの小町大路の東に面した調査地点では、鎌倉時代の13世紀中頃から室町時代の15世紀頃の建物跡などを確認しました。砂地だったところに、細かい泥岩片を使用した整地を部分的に繰り返し、土坑、竪穴建物等を掘り込んでいました。土坑の中や整地面の上で動物の骨が多数出土しています。細長い穴に投げ込まれたような状態の馬の骨や、馬の体の一部を埋めた穴も見つかりました。銅銭やかかわらけが近くに置かれる場合もあり、祭祀の痕跡かもしれません。焼土や炭、灰が詰まった大型の穴が発見されています。半地下式の建物からは細かく切断した鹿の角が出土し、この場所で動物の骨を加工する作業を行っていた可能性があります。他にも、建築部材が残る建物が見つかりました。壁や床の部材が良く残り、建物が取り壊される時に、壁板が中に倒れ込んだ状態で埋まっていました。かわらけ、常滑や古瀬戸で生産された国産陶器、中国産磁器、砥石、硯の原石、水晶の原石、加工痕のある動物骨、土鍾等が比較的多く出土しており、何らかの生産活動が行われた工房であった可能性があります。



写真 7 木組みが残る半地下式の建物跡

(photo7) Remains of the half-underground building having wooden frames



写真8 細長い穴に埋められた馬の骨

(photo8) Horse bone buried in a narrow hole



写真9 灰や焼土が埋められた大型の穴

(photo9) Large sized pit buried with ash and charred earth

「康元二年」の年号が刻まれた滑石製品

滑石とは主に長崎県西彼杵半島で産出する石材で、非常に柔らかく加工が容易です。鎌倉時代には石鍋の原材料や、温石（カイロ）として珍重されていました。ここで紹介する滑石製品も、製品の一部には煤が付着しており、石鍋として製作された際の加工痕跡も確認できます。もとは石鍋として鎌倉に持ち込まれ、破損して破片となった後に温石として再利用されたものと考えられます。温石には「康元二年」と刻まれていました。康元二年は西暦 1257 年で、『吾妻鑑』には 5 月、8 月、12 月と大地震があったこと記され、激動の年であったことが想定されます。



写真 10 「康元二年」と記された滑石製品

(左写真、中央拓本、右年号部分実測図、縮尺不等)

(photo10) Talc product with an inscription "Kogen 2" engraved (left, photo; center, rubbed copy; right, survey drawing; scales are not same)

いまこうじにしいせき 4. 今小路西遺跡 (由比ガ浜一丁目 165 番 11、12 地点)

Imakoji-Nishi-Iseki Site

鎌倉時代の道路跡

この調査地点は、鎌倉駅の南方約 800m 六地藏の交差点から西へ延びる市道の北側に面しています。発掘調査では、鎌倉時代の道路や半地下式の倉庫が発見されています。発見された鎌倉時代の生活面は砂地であり、遺跡は長谷地域を東西に広がる砂丘上に位置していることが分かります。この砂丘の広がり、御成小学校の東側でも確認されており、この付近が北限と推定されます。

本調査地点で発見された鎌倉時代の道路は、人頭大の泥岩を突き固めて造られています。調査区の南側を走る現市道とほぼ同様の方向に走っており、鎌倉時代の道筋が今日まで継承されていることが分かります。この調査地点からは、かわらけや常滑や瀬戸で生産された国産陶器、中国から輸入された青磁や白磁などが出土しています。また、ふいご（竈）の羽口と呼ばれる、金属生産に使われる道具も出土しています。金属加工の際、金属を溶かす熔解炉や、鋼を生成するための製鋼炉に風を送る道具がふいごで、送風管を炉に接続する際、用いられるのがふいごの羽口です。炉は 1000 度以上の高温になるものもあり、そこに接する羽口の先端は焦げて、黒褐色に変色しています。



写真 11 調査区全景写真（東から） 写真左側の泥岩列が鎌倉時代の道路跡

(photo11) Entire research area (from east). The row of mudstones on the left is remains of the road of the Kamakura period.



写真 12 調査区全景写真 四角い大きな穴は半地下式の建物の痕跡

(photo12) Entire research area. The large square hole is the trace of the half-underground building



写真 13 主な出土遺物（上段左から、かわらけ、白磁皿、瀬戸入れ子、常滑壺、中段左から、ふいごの羽口、硯、鉄製釘、骨製笄、動物骨（上腕骨、犬か）、貝（ハマグリ）、下段用途不明の土製品）

(photo13) Main excavated artifacts (from left of the upper side, *kawarake* earthenware, white porcelain, *Seto* nesting, *Tokoname* earthenware pot; from left of the middle, tuyere of bellow, inkstone, nail made of iron, decorative comb made of bone, animal bone (humerus of dog?), shell (hard clam); the lowest, clay artifact)

5. 長谷小路周辺遺跡 (由比ガ浜三丁目 199 番 37、42 地点)

Hasekoji-Syuhon-Iseki Site

古代の葬送の地

この調査地点は、長谷小路の南側、現在の江ノ島電鉄由比ヶ浜駅から北西へ約150mにあります。ここからは、鎌倉時代の倉庫と推定される半地下式の建物や、より下層からは古墳時代から平安時代の住居跡や墓が発見されました。すぐ近くで実施された由比ガ浜こどもセンター建築に伴う発掘調査では、古墳時代の石棺墓が発見されています。

鎌倉の海浜地区を中心に多く見つかる鎌倉時代の半地下式の建物は、貿易に係る倉庫跡と考えられています。古墳時代から平安時代の土器や陶器、貝殻などの自然遺物等、約500点が出土しています。多くは土師器の^{フナ}壺や壺、須恵器の皿で、中には^ナ申変国（現在の山梨県・長野県）で生産された土師器の^ナ壺も出土しています。古代の地層からは多くの遺物が出土していますが、建物などの痕跡は乏しく、また墓に葬られた人骨が出土していることから、葬送に係る場所であった可能性が指摘されています。



写真 14 鎌倉時代の全景写真 手前の四角い穴は半地下式の建物の痕跡

(photo14) Entire area of the stratum of the Kamakura period. The foreground square hole is the trace of the half-underground building



写真 15 1号人骨出土状況
(photo15) No.1 human bone
as excavated

古代の墓は2基あり、いずれも子供が葬られていることが分かりました。

1号人骨とした人骨は、四角い墓穴の中に、頭を西に、顔を北に向けて、仰向けに葬られていました。身長は約120cmで、推定年齢は6才前後、性別は不明です。埋葬された時代は8～9世紀と考えられています。指の骨まで残るほどの良好な状態で、古代の小児人骨が出土することは全国的にもまれで、貴重な資料です。

2号人骨は再葬と呼ばれる葬送の方法が想定されます。人骨は、直径約40cmの穴に、骨が詰め込まれた状態で発見されました。人骨は、おそらく一度葬られ、骨だけの状態になった後に、再び墓穴に納められたものと推定されます。このように遺体を一度葬り、骨となった後に、再び埋葬することを、考古学では再葬と呼んでいます。

2号人骨は、推定年齢は5才前後で、性別は不明です。埋葬された時代は9～10世紀頃と推定されています。



写真 16 2号人骨出土状況
(photo16) No.2 human bone as excavated

Buried Cultural Properties in Kamakura 25

1. Hojyo-Yoshitoki-Hokkedo-Ato

Hojyo Yoshitoki was a central person of the early Kamakura shogunate, and is said that he created a base of the shogunate system. In the historical chronicle, "Azuma Kagami" of the Kamakura period, it is described that Hojyo Yoshitoki died in Gennin 2 (1224), and his tomb was built on the east side of Minamoto no Yoritomo's tomb. This is the Hojyo Yoshitoki Hokkedo, tomb temple.

The excavation research performed in Heisei 17 (2005) revealed a flat ground made by flattening halfway up the mountain, and a building where Yoshitoki had been buried was discovered. The building is estimated to have been a square, 8.84 m each side, and trees and rain water gutters surrounded the building. The research also revealed that the building had been suffered from a fire.

Currently, there is a display showing the range of the building based on the results of the excavation research, and you can experience the reconstruction of the building using AR (augmented reality).

2. Imakoji-Nishi-Iseki Site (Onari-machi 187-3)

An excavation research was performed in Heisei 18 to 19 (2006 to 2007) at the adjacent area west to this research area, then samurai residence remains were discovered, and a paved road was discovered in front of the residence. The research area this time is located to east across the road, and opposite to the residence.

In this research, since a poor building was discovered, it is presumed that this was an area where ordinary people lived. That is, it was revealed that the opposite side of the samurai residence across the road was a residential area of the ordinary people. In the site discovered in a current Onari elementary school, a residential area of the ordinary people was also discovered across a road from a samurai residence, so that the actual conditions of the city life mixed with the samurais and the ordinary people are being revealed.

3. Wakamiyaoji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 1-342-2, 5)

In this research area, horse bone was discovered in a state where it was thrown in a ditch. Lots of charred earth and charcoal were also excavated, and a large sized pit filled with ash and charred earth was discovered. Antlers cut in pieces were excavated from a discovered building, so that there is a possibility that processing work of animal bones was performed in this place. From these points, there is a possibility that handicraft production was performed around here.

A half-underground building having construction members was discovered. The members of the wall and the floor are well left. This building was buried in a state where the wall plates were fell into the room when it was abandoned.

4. Imakoji-Nishi-Iseki Site (Yuigahama 1-165-11,12)

In this excavation research, a road and a half-underground warehouse of the Kamakura period were discovered.

The road of the Kamakura period discovered in the research area extends almost in the same direction as the current road does, so that it is understandable that a route of the Kamakura period has been inherited until now. There is a Rokujizo intersection in the extension of east side of this road.

5. Hasekoji-Syuhon-Iseki Site (Yuigahama 3-199-37,42)

A half-underground building was discovered from a stratum of the Kamakura period. This kind of buildings discovered in the heart of the seaside area of Kamakura are considered as the remains of warehouses in related to trading.

Many artifacts are excavated from an ancient stratum, but a trace of a building is poor and human bones buried in tombs are excavated, so that the possibility that this area was the place related to the funeral is pointed out.

From this research area, two tombs where children had been buried were discovered.

No. 1 human bone was buried in a square grave pit with its head facing west, its face facing north, and lying on its back. The left human bone is about 120 cm in length, the estimated age is around 6 years old, and the sex is unknown. The buried period is estimated to be in 8 to 9 centuries. It is rare that the ancient child bone having a good condition such that even its finger bones are kept is excavated throughout Japan. Thus, this is an important material to archaeology and anthropology.

No. 2 human bone was discovered in a state where the bone was filled in a hole having a diameter of around 40 cm. The estimated age is around 5 years old, and the sex is

unknown. The buried period is estimated to be in 9 to 10 centuries.



写真 17 北条義時法華堂跡調査風景
(photo17) Research scene of
Hojyo-Yoshitoki-Hokkedo-Ato



掲載遺跡（出土地点）名称及び所在地一覧（国土地理院地図を基に作成）

1. 北条義時法華堂跡
2. 今小路西遺跡（御成町 187 番 3 地点）
3. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目 342 番 2、5 地点）
4. 今小路西遺跡（由比ガ浜一丁目 165 番 11、12 地点）
5. 長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目 199 番 37、42 地点）

鎌倉の埋蔵文化財 25

発行日 令和 4 年（2022 年）年 3 月 31 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会 文化財課

〒248-0021 鎌倉市御成町 12 番 18 号

鎌倉水道営業所庁舎 2 階

電話:0467-61-3857 FAX:0467-23-1085

E-mail bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
